東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

【概要】

各専攻医の希望を取り入れ、将来のサブスペシャリティ習得の端緒となる研修ができるよう教育プログラムの刷新を図っている。

1. 抄読会や症例検討会を始め、ワークショップ、ハンズオン、講演会も含めて、質の高い教育の機会を提供する。
2. 当院での研修で多岐にわたる数多くの症例を経験できるが、心臓麻酔、小児麻酔、ペインクリニック、集中治療などサブスペシャリティ領域の教育病院の拡充を図りつつある。
3. 国内のみならず、希望によっては海外での学会発表も可能で、学位取得に向けた研究活動も開始できる。

【特徴】

1. 当院での研修1年間で胸部外科、脳神経外科、帝王切開につき、日本専門医機構認定制度の必要臨床実績を充たす研修できる。その後、小児専門施設での半年間のトレーニングに続き、心臓麻酔を学び、3年目の終了時までに必ず最低症例数を獲得できる。
2. 当院は三次救急指定、災害拠点中核病院、地域周産期母子医療センターなどを備えており、重症外傷や腎移植術や超緊急帝王切開など多種の手術麻酔を経験できる。
3. 技術の上達は経験数に比例するが、硬膜外カテーテル留置、脊髄くも膜下麻酔など基本的な手技から区域麻酔や超音波ガイド下血管穿刺など数多くの穿刺手技を1年目から学べる。
4. 神経ブロック、経食道心エコー、気道確保困難症例、人工心肺装置操作などのワークショップやハンズオンを始め、講演会、抄読会などが定期的に開かれている。その他、重症カンファレンスや症例検討会なども随時行われ、自ら自然に学べる機会が多くある。

5．心臓麻酔、小児麻酔、集中治療、ペインクリニックなどサブスペシャリティの研修施設との連携し、拡充を図りつつある。希望によっては専攻医4年目にサブスペシャリティ研修を開始できる。

6．学術活動もさかんで、1年目は地方会または臨床麻酔学会における症例報告、2年目は日本麻酔科学会での研究発表、3年目は希望があれば、海外の学会での発表が可能である。希望により発表内容を論文化し、学位取得への礎を作り、その後の学術活動を支援する。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修1年目は、当院で一般臨床麻酔を通じて硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、区域麻酔、超音波ガイド下血管穿刺、分離肺換気管理といった手技を数多く経験し、呼吸循環や疼痛管理に精通することを目指す。特に、硬膜外麻酔症例を集中して担当し、技術を習得できることは、これから始まる麻酔科人生において大きな武器になること間違いない。
- 研修2年目には、当院で術後管理も含めて重症症例を担当し、半年間、小児専門施設で小児麻酔のトレーニングを積む。
- 3年目に心臓麻酔を当院のみならず、希望によっては心臓血管手術に特化した病院で学べる。専門医受験に必要な特殊麻酔症例数は3年間で取得できる。
- 4年目以降は、各自のキャリアプランに応じて、当院またはサブスペシャリティの研修施設にて心臓麻酔、小児麻酔、集中治療、ペインクリニックなど深く学ぶ機会を設けている。
- 学会活動は、1年目は地方会または臨床麻酔学会、2年目は日本麻酔科学会、3年目は海外の学会での発表と段階的に臨み、症例報告、論文作成にも挑む。むろん、希望があれば、大学院や国内・海外留学などで見聞を広げ、研鑽を積むことも可能だ。
- 地域医療の維持のため、外勤として1週間に1回、地域医療支援病院（TMGあさか医療センター、埼玉協同病院、春日部中央総合病院、名戸ヶ谷病院）で研修を行う。

＜研修実施計画例＞

	A（標準）	B(心臓麻酔)	C(小児麻酔)	D(集中治療)	E(ペイン)
初年度前期	当院	当院	当院	当院	当院
初年度後期	当院	当院	当院	当院	当院
2年度前期	小児医療センター	小児医療センター	小児医療センター	小児医療センター	小児医療センター
2年度後期	当院	当院	当院	当院	当院
3年度前期	当院（心臓）	当院（心臓）	当院（心臓）	当院（心臓）	当院（心臓）
3年度後期	聖路加国際病院（無痛分娩）	日本医科大学（集中治療）	日本医科大学（集中治療）	当院（集中治療）	聖路加国際病院（無痛分娩）
4年度前期	日本医科大学（集中治療）	立川綜合病院	小児医療センター	日本医科大学	当院
4年度後期	当院（ペイン）	立川綜合病院	小児医療センター	日本医科大学	東京女子医科大学病院

＜週間予定表＞

当院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	外勤	手術室	周術期外来	手術室	休み	休み
午後	手術室	外勤	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直 (1回/月)			当直				

・月曜日の朝8時～8時半：重症カンファレンスや症例検討会

・水曜日、金曜日の朝8時～8時半：症例検討会、抄読会、薬剤、器材の説明会、学会の予演会

4. 研修施設の指導体制

Ⅰ専門研修基幹施設

東京女子医科大学附属足立医療センター（認定病院番号：61）

研修プログラム統括責任者：市川　順子

専門研修指導医（3名）		麻酔専門医(2名)	
市川　順子	（麻酔、心臓麻酔）	向山　瑤子	（麻酔）
小森　万希子	（麻酔、ペインクリニック）	福田　友樹	（麻酔）
西山　圭子	（麻酔、集中治療）		

特徴：

重症症例を含む多くの麻酔症例を経験でき、硬膜外カテーテル留置、神経ブロックなど様々な手技を1年目から学べます。更に、ペインクリニック、集中治療、心臓麻酔、小児麻酔を集中的に学ぶことで、サブスペシャリティに進む端緒となる研修が可能です。

Ⅱ専門医研修連携施設

TMGあさか医療センター（認定病院番号：1268）

研修プログラム統括責任者：成島　光洋

麻酔研修指導医(9名)		麻酔専門医(1名)	
成島　光洋	（麻酔）	八木　瞳	（麻酔）
石橋　絵里子	（麻酔）		
糟谷　祐輔	（麻酔）		
茶谷　祐一	（麻酔）		
平山　山剛	（麻酔）		
長江　泰孝	（麻酔）		
岡村　圭子	（麻酔）		
横山　竜也	（麻酔）		
筒井　健次	（緩和ケア・麻酔）		

特徴：

＜病院概要＞

当院は埼玉県の二次医療圏の南西部に位置し，現在も人口が増加しているエリアのため，症例数も豊富です．地域の消防・診療所・施設とも連携をとり救急患者も多く受け入れています．

＜麻酔科研修＞

2次救急に対応し，一般症例から重症症例まで幅広く研修可能です．超音波ガイド下神経ブロックの経験が多く積めます．入院サポートセンター（周術期外来）を通して周術期をチーム医療であたります．緩和ケアセンター，集中治療科で学ぶことも可能です．

立川綜合病院（認定病院番号:1469）

研修プログラム統括責任者:桑原　淳

麻酔研修指導医(5名)	
桑原　淳	（麻酔、心臓血管麻酔、神経ブロック）
佐藤　敬太	（麻酔、心臓血管麻酔、集中治療）
小澤　菜月	（麻酔、心臓血管麻酔、神経ブロック）
岩出　宗代	（麻酔、神経ブロック、ペインクリニック
笹川　香織	（ま水、　心臓血管麻酔、神経ブロック）

特徴:

新潟県内で中心的な役割を果たす手術施設．特に県内随一の心臓血管手術症例数を誇り，高度な心臓血管麻酔の修練が可能．また，無痛分娩にも積極的に関わっており周産期の麻酔研修も行っている．

埼玉協同病院（認定病院番号:1667）

研修実施責任者:畔柳　綾

専門研修指導医(5名)			
畔柳　綾	（麻酔、ペインクリニック）	黒羽根　朋子	（麻酔）
西川　毅	（麻酔）	金子　吾朗	（麻酔）
岩切　裕子	（麻酔）		

特徴:

埼玉県南部地域の医療を担う病院として幅広い疾患に対応しており、整形外科、外科、産婦人科、耳鼻科などの手術が経験できます。周術期の神経ブロックや、ペインクリニックで疼痛管理を学ぶことができます。

日本医科大学付属病院（認定病院番号:9）

研修プログラム統括責任者:石川　真士（麻酔一般、心臓麻酔、無痛分娩）

専門研修指導医(12名)			
石川　真士	（麻酔一般、心臓麻酔、無痛分娩）	水野　友喜	（麻酔、心臓麻酔）
間瀬　大司	（麻酔、集中治療、産科麻酔）	富張　雅宏	（麻酔）
源田　雄紀	（麻酔、集中治療）	右田　妹亜	（麻酔、無痛分娩）
岩崎　雅江	（麻酔、ペインクリニック、緩和ケア）	金子　美穂	（麻酔、緩和ケア）
稲垣　喜三	（麻酔、ペインクリニック、漢方）	井野　佑佳	（麻酔、緩和ケア）
並里　大	（麻酔）		
山本　真記子	（麻酔、心臓麻酔、基礎研究）		

特徴:

麻酔一般のほか、外科系集中治療室へのローテートを必須としており、術中の麻酔管理だけではなく、術後管理を含めた周術期管理を学んで頂ける。その他にも、緩和ケア、ペインクリニック外来のローテートも可能である。

緊急手術症例、重症症例を指導医のもと数多く経験することが可能である。女性医師のキャリア支援にも力を入れている。

聖路加国際病院（認定病院番号:249）

研修実施責任者:　阿部　世紀

専門研修指導医(17名)			
阿部　世紀	（麻酔、小児麻酔）	小山　杏奈	（麻酔、ペインクリニック、産科麻酔）
藤田　信子	（麻酔、心臓麻酔、産科麻酔、ペインクリニック）	城本菜那	（麻酔、心臓麻酔）

城本　菜那　（麻酔、心臓麻酔）	大橋　雄大　（麻酔、産科麻酔）
林　怜史　（麻酔、心臓麻酔、ICU）	井上真由子　（麻酔、心臓麻酔）
篠田　麻衣子　（麻酔、区域麻酔）	坂野　彩　（麻酔、心臓麻酔）
早坂　知子　（麻酔、区域麻酔）	吉武　朱里　（麻酔、産科麻酔）
宮坂　清之　（麻酔、小児麻酔、シミュレーション教育）	蓮下　雄大　（麻酔、ペインクリニック）
山上　郁雄　（麻酔、ペインクリニック）	ハシチウォヴィッチ トマシュ（麻酔、APS）
鈴木　亜沙美　（麻酔科、産科麻酔）	

特徴：
当院の手術室は15室あり、心臓外科、小児外科、胸部外科、腹部外科、脳神経外科、無痛分娩、 また先端医療（TAVI、Mitralclip、Da Vinci手術（泌尿器、呼吸器外科、婦人科、外科、心臓外科）など）も含めた、幅広い症例が経験できる。挿管、硬膜外カテーテル留置、中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔、産科麻酔など、将来サブスペシャリティ領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられる。

東京女子医科大学病院（認定病院番号：32）
研修プログラム統括責任者：長坂　安子）

専門研修指導医(16名)	
長坂　安子　（麻酔）	古井　郁恵　（麻酔）
黒川　智　（麻酔）	森脇　翔太　（麻酔）
尾崎　恭子　（麻酔）	武石　健太　（麻酔）
鈴木　康之　（麻酔）	中澤　莉沙　（麻酔）
笹川　智貴　（麻酔、ペインクリニック）	加賀屋　菜々　（麻酔）
古谷　健司　（麻酔）	鈴木　真也　（麻酔）
土井　健司　（麻酔）	川本　英智　（麻酔）
石川　高　（麻酔）	羽二生　顕　（麻酔）

特徴：
豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修、ペインクリニック、緩和ケアの研修も可能です。心臓麻酔研修は特に力を入れており、心臓麻酔専門医の取得も可能です。多種の臓器移植（心臓、腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理、エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します。

東京都立小児総合医療センター（認定病院番号：1468）
研修実施責任者：西部　伸一

麻酔研修指導医(7名)	麻酔専門医(2名)
西部　伸一　（小児麻酔）	福島　達郎　（小児麻酔）
山本　信一　（小児麻酔）	和田　涼子　（小児麻酔）
簑島　梨恵　（小児麻酔）	
伊藤　紘子　（小児麻酔）	
箱根　雅子　（小児麻酔）	
佐藤　慎　（小児麻酔）	
千田雄太郎　（小児麻酔）	

特徴：
地域における小児医療の中心施設であり、治療が困難な高度専門医療、救命救急医療、こころの診療を提供している。年間麻酔管理件数が4000件以上と症例数が豊富で、一般的な小児麻酔のトレーニングに加え、新生児麻酔、心臓麻酔、気管形成術の麻酔などの研修が

行える。また、積極的に区域麻酔を実施しており、超音波エコーガイド下神経ブロックを指導する体制も整っている。2019年度より心臓血管麻酔専門医認定施設となっている。

東京女子医科大学附属八千代医療センター（認定病院番号:1291）

研修実施責任者:佐藤二郎

専門研修指導医(3名)	
佐藤二郎　（麻酔）	前原千彩　（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔、産科麻酔）
	野崎純一　（麻酔、心臓麻酔、小児麻酔）

特徴:
東葛南部二次医療圏でも人口急増地域にある地域の基幹総合病院です。また総合周産期母子医療センターを有し、また地域を超えた小児医療を展開しています。そうした病院の性格から、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科など外科系全科の症例のみならず、新生児を含む小児麻酔や、分娩時鎮痛を含む産科麻酔の豊富な麻酔研修を行うことができます

春日部中央総合病院（認定病院番号:1649）

研修実施責任者:安藤一義

麻酔研修指導医(1名)	麻酔専門医(2名)
安藤一義　（指導医、麻酔）	大串雅子　（麻酔）
	牛山郁子　（麻酔）

特徴:
心臓外科手術が多く開心術からステントグラフトまで多彩な心臓外科麻酔の研修ができます。また鎮静下伝達麻酔でおこなう症例が多く、神経ブロックの経験が多く積めます。循環器内科との連携も強く、Impellaの麻酔やWATCHMANの麻酔経験も可能です。

名戸ケ谷病院（認定病院番号:1132）

研修実施責任者:　古荘　祐史　（麻酔）

麻酔研修指導医(4名)	麻酔専門医(3名)
古荘裕史　（麻酔）	緑川陽子　（麻酔）
椋棒由紀子　（麻酔、ペインクリニック）	小林真美　（麻酔）
又吉重影　（麻酔）	五十嵐寧々　（麻酔）
仁保敬子　（麻酔）	

特徴:

common diseaseによる緊急手術症例の麻酔を多数経験することを通して，基本的な麻酔手技のみならず，高齢・合併症症例に対処する知識や胆力，多診療科が連携するダイナミックなチーム医療における麻酔科医としての役割を体得できます。

福寿会東京病院（認定病院番号:793）

研修実施責任者:曽根依子

専門研修指導医(4名)	
曽根依子　（麻酔）	野村　実　（麻酔）
内野博之　（麻酔）	庄司　詩保子　（麻酔）

特徴:地域医療貢献と周術期管理

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科　市川順子
〒123－8558　東京都足立区江北4-33-1
TEL　03-3857-0111（31391または31378）
E-mail　　ichikawa.junko@twmu.ac.jp
Website　　URL：https://twmu-amc.jp/department/anesthesiology/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識、技能、態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

1）十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
2）刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
3）医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
4）常に進歩する医療、医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料麻酔**科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患、病態、経験すべき診療、検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。
このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1）臨床現場での学習、2）臨床現場を離れた学習、3）自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識、技能、態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識、技能、態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目
手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導の元、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目
1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目
心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識、技能を修得する。

専門研修 4 年目
3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

(ア) 形成的評価

●研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
●専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識、技能、適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

(イ) 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。
研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止、中断、研修プログラムの移動

(ア) 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠、出産、育児、介護、長期療養、留学、大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。
- 研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

(イ) 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

(ウ) 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としてのTMGあさか医療センター、埼玉協同病院、東京女子医科大学附属八千代医療センター、名戸ケ谷病院、福寿会東京病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域において安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大学病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間、麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とする。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。当院では、専攻医との面談を最低年に1回行い、心身の健康に問題がないか評価を行っている。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達、指導する。